

復 命 書

平成27年 9月 13日

日進市議会議長 近藤 ひろき 様

氏 名 大橋 ゆうすけ 印

出張期間

平成27年5月20日～21日
2日間

出張先

東京ビッグサイト
「6回教育 IT ソリューション EXPO」

参加者

・大橋ゆうすけ

用 務

- ・全社員の自律的キャリア開発を支援！
ソフトバンクのモバイルラーニング
- ・ICTが変える特別支援教育
自分の力で学べる喜びが、学力の定着を支える
- ・草津市を全国に誇れる教育日本一のまちへ！
市長の進める教育 ICT 化
- ・8大学連携で、学生の基礎学力をサポート！

復命事項

別紙参照

※別添資料 あり

復命書

(行政視察報告書)

視察日

平成 27 年 5 月 20 日～21 日

視察先

東京ビッグサイト

「6 回教育 IT ソリューション EXPO」

- : 全社員の自律的キャリア開発を支援！
ソフトバンクのモバイルラーニング . . . P, 3
- : ICT が変える特別支援教育
自分の力で学べる喜びが、学力の定着を支える . . . P, 5
- : 草津市を全国に誇れる教育日本一のまちへ！
市長の進める教育 ICT 化 . . . P, 8
- : 8 大学連携で、学生の基礎学力をサポート！ . . . P, 10

作成日

平成 27 年 9 月 9 日

作成者

日進市議会議員 大橋ゆうすけ

日 時：平成 27 年 5 月 20 日 水曜日 10:00～11:00
場 所：東京ビッグサイト「6 回教育 IT ソリューション EXPO」
セミナーテーマ：全社員の自律的キャリア開発を支援！
ソフトバンクのモバイルラーニング
講 師：ソフトバンクモバイル(株) 人事総務統括 人事本部
人材開発部 部長 源田泰之

ソフトバンクの人材育成施策

・自ら手を挙げた人に機会を提供する

ソフトバンクでは、社内の共通の考え方として「自ら手を挙げた人に機会を提供する」としている。これは、社員の採用時にも重点が置かれ採用基準の一つにもなっているとのこと。

こうした考え方を実現するために、社内に限らず社外においても新規事業提案制度「ソフトバンクイノベーション」を通して、新しい事業のアイデアを募り、審査を通過した提案には実際に出資し、事業化を行っている。

事業化された場合、ソフトバンクの子会社として設立し提案者が社長となることもあるようです。新規事業の提案としては、年間に 1000 件程集まる年もあるとのこと。

・社内教育（全社 e ラーニング）

e ラーニングの学習コースは社員向けのビジネススキルが約 1200 コース。内容としては、ビジネススキル（ビジネスマナー・タイムマネジメント・会議の効率的な進め方・プレゼンテーション）、商品、テクノロジー、法務などがあり、販売クルー向けの販売知識及びスキルが約 400 コースとなっている。

年間の受講者数は、年々増加傾向にあり 2014 年は、約 180 万回を突破しています。

また、新入社員となる内定者向けにも学習コース（ビジネス文書・マナーなど）が、約 30 程度用意されている。

e ラーニングとは

e ラーニングに使用する機器としては、パーソナルコンピュータ(PC)、CD-ROM、DVD-ROM、デジタルテレビ、携帯端末（携帯電話、PDA（携帯情報端末）等）などがあげられる。また、情報通信に関しては、インターネットなどのコンピュータネットワークを通じて、ハイパーテキスト、電子メール、電子掲示板、電子会議、ビデオ配信などの技術が活用されています。

e ラーニングの利点と欠点

利点

実施側

- ・学習者と同時間、同一場所にいる必要がなく、効率的に業務が遂行できる
そのため、会場費や移動経費をはじめ印刷量を減らすことができる
- ・成績管理などの自動化が図れる
- ・教材の更新、最新化が容易

学習者側

- ・ 同時間、同一場所に集まる必要がなく、自由な時間と場所で学習できる
- ・ 個々人の習熟度に応じて学習を進めることができる
- ・ 目的に応じた均一化（標準化）された授業を受けることができる
- ・ 印刷教材のみの通信教育に比較して、印刷教材の量を減らすことができる

欠点

実施側

- ・ 学習者の状況をデータからしか把握できない
- ・ 教材・学習材の作成の工数が大きい
- ・ イニシャルコストが高い

学習者側

- ・ 学習意欲の持続が難しい
- ・ 質疑などその場での問題解決がしにくい
- ・ 教師やほかの学習者との交流がとりにくい

所感

e ラーニングの学習コースは、企業と異なる場合もあるが、新卒者を対象とした学習コースを設けることは、有効であると考えている。また、市役所内では、3年～5年程度での異動も多いため、異動前の学習用や本人の関心のある内容を勉強できる環境を整えることも有効であると考えています。

これは、ソフトバンクでの検証結果でも表れている。ソフトバンクでは、e ラーニングの学習とともに検定も実施されており、その結果が、日頃の業務姿勢や業績と近い結果を示していたとのことでした。

しかし、全ての業務を学習コースとして設けることは困難なため、現在行われている業務を「定型業務」と「それ以外」に大きく分類しeラーニングの導入について有効性のある内容であるか、業務の仕分けを行う必要もあります。

さらには、個人の学習度や実績が適正に評価できる体制も構築されていなければ、新たな人材の発掘や後継者を育てていくことは容易ではないと考えています。

日進市においても自ら手を挙げた人に機会を提供するという考え方を取り入れていくべきと実感しましたので、導入を前提に政務調査を行います。

日 時：平成 27 年 5 月 20 日 水曜日 15:30～16:30
場 所：東京ビッグサイト「6 回教育 IT ソリューション EXPO」
セミナーテーマ：ICT が変える特別支援教育
自分の力で学べる喜びが、学力の定着を支える
講 師：松江市 意東小学校 井上賞子

読み書きの困難を示す子への支援

(自閉症・情緒障害特別支援学級在籍、高機能自閉症、LD の 6 年生事例から)

- ・現象の確認（事前状況で聞いていた子どもの状況）
 - : 計算や県名を覚えるといった活動は得意だが
 - : 読解は低学年の課題でもかなり難しい
 - : 漢字については、読み、書きともに定着していない
 - : 筆圧が弱く、字の形が整わない
 - : 集中が続きにくく、気が向いたことしかやらない
 - : コミュニケーションの課題が大きく、激しい不適応状態になることがある
- ・困難の背景の予測（本当にそうなのか）
 - : 確かに字の形はそろわないが、構成要素や方向性はほぼあったものが書けている
 - 本当に書けないの？
 - : 家ではネットで自分の知りたい情報を検索している
 - 本当に読めないの？
 - : 6 年生の算数テストを、一人で取り組んで正確に解くことができる
 - 本当に読解できないの？
 - : 提示した情報の量が多かったり、文字情報にかたよったりしていると、課題の意図が伝わらなかったり、見通しが持てずにとまどう様子が見られるが、内容や終了の見通しが持てると、集中して取り組む姿も見られた
 - 入り口や方法が見つけれられていなかったのでは？
 - : 読み、書きに特異的な困難があるだろう。また、情報を取得していく際の苦手さもあり、従来の学習方法の中では、失敗体験が多くなったことが予測される。しかし、理解力は高いことが感じられた
 - 「できない自分」を感じ続けてきたのでは？学べる自分のイメージが持てていないのでは？「学ぶ」手立てがもてていないのでは？
- ・活用当初の狙い
 - : 代替え手段も含めて手立てを持つことで、学びきる見通しと学びやすさを支え、学習機会を保障していく。
 - : 「できる自分」を感じる機会を増やすことで、学習意欲を支えていく。
- ・学習機会を保障する手立て
 - : 「読み」の底上げと見通しを支えるツールとして
 - 「VoiceOFDaisy」「i 暗記」「漢字ドリル」「Safari」
 - : 「書き」の見通しを支えるツールとして
 - 「小 6 漢字ドリル 楽しく学べる漢字シリーズ」
 - : 考えをまとめるツールとして
 - 「simplemind+」「7notes」
 - : 思いを伝え合うツールとして

ットありきではなく、目的に照らして効果的に使う必要がある。また、他の方法とも柔軟に組み合わせる必要があります。

講師の井上先生は、東大先端科学技術研究センター研究員の方と他の小学校教諭とともに、読むことや書くことが困難な子どもを指導する先生方のために、アプローチ法と指導についてインターネット上に「そうか！チャート」という情報提供を行っているため、参考にしながら活用すると共に独自での情報集積と対応策をまとめていく仕組み作りをする必要があると考えていますので、引き続き調査研究を行いたいと考えています。

日 時：平成 27 年 5 月 21 日 水曜日 11:40～12:40
場 所：東京ビッグサイト「6回教育 IT ソリューション EXPO」
セミナーテーマ：草津市を全国に誇れる教育日本一のまちへ！
市長の進める教育 ICT 化
講師：草津市長 橋川 渉

事業背景

政府の高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部（2020 年までにタブレット PC の児童生徒一人一台配置ならびに ICT 支援員配置を、国の政策として定めている）ならびに文部科学省の「教育の情報化ビジョン」において、今後の方向として定めています。さらに、学校教育の ICT 化については、平成 22 年度に策定した草津市教育振興基本計画の「確かな学力の育成」の中に位置づけており、本市の重点的な教育施策の 1 つとして、優先度の高い事業としています。

事業対象

- ・タブレットパソコンの活用→渋川小学校児童及び市内全小中学校特別支援学級。
- ・学校 ICT 支援員配置事業→市内全小中学校。

事業目的

- ・個別学習、協働学習、交流学习等多様な学習形態で学ぶことにより、児童生徒の相互のコミュニケーションを促し、思考力・判断力・表現力を育てる。
- ・教育総務課が、平成 22 年度から電子黒板、教育用コンピュータ、タブレットパソコンの整備を順次行っている。学校教育課としては、これらを活用した授業改善に取り組むことで、児童生徒の学力向上に結びつける。

事業内容

- ・「タブレットパソコン」45 台を導入。
 - ：研究指定校 1 校で研究実践実施⇒1 学級分タブレット型コンピュータ 35 台を活用する。
 - ：すべての学校の特別支援学級に持ち回り⇒タブレット型コンピュータ 10 台を活用する。
- ・全小中学校に対して、ICT 支援員 2 名を配置。
 - ：タブレット型コンピュータの持ち回りに合わせて、市内 2 名の ICT 支援員が学校を訪問する。

事業効果

渋川小および市内特別支援学級にタブレットパソコンを導入し、研究実践に取り組んだところ、子どもの学習に対する意欲・関心が高まり、自らタブレットパソコンの特性や良さを生かした活用を見出す姿が見られるようになった。さらに、電子黒板と併用することによって、互いの考えを共有したり、伝えたりすることができ、子どもの思考力やコミュニケーション能力の育成にも役立った。また、特別支援学級では、児童生徒の学習に集中できる時間が 10 分～30 分程度延びるようになった。タブレットパソコンの導入は、授業の質の向上を図るとともに、児童生徒の思考・判断・表

現の力および最新の機器を自分のものとして活用する力等を伸ばすことに効果をもたらした。

草津市長の考え

教育は未来への投資であり、「人づくりこそ街創り」だとの思いから、草津市では、重点施策の一つとして「学校 ICT 推進」を行っている。

全国に誇れる草津の教育をつくるため、教育環境の改善、読書教育の推進など、教育の充実に取り組んでいる。これまでに、すべての学校の耐震化、幼稚園・小・中学校の全教室へのエアコン設置、小学校の全学年での少人数学級（35人以下）の実現、市独自での先生や学校支援員の増員によるきめ細かな指導、学校図書館の図書整備と司書の配置、小・中学校への電子黒板やタブレットパソコンの導入による ICT 教育の推進を行っている。

従来の黒板やノートを使った授業や読書教育といった基本的な学習を大事にしつつ、ICT を活用して教育の質を向上させ、子どもたちが社会で生きて働く学力を身につける取り組みを継続し、「教育日本一のまち・くさつ」を目指している。

更には、「開かれた行動をする教育委員会」を目指すために、教育委員の公募を行うと共に教育委員協議会を発足させ、議事録の発信も積極的に行いながら、市長と教育委員会の連携強化を図っている。

こうした考えや思いは、予算編成にも現れており 7 年前の教育に関する予算額が 29 億円だったことにに対し、27 年度の予算額は 83 億円へ増額されています。

所感

草津市（市長）が明確な方針を打ち出し、力強いリーダーシップによって動き始めたことで実現されたものを感じました。2014 年の 11 月 25 日には、滋賀県草津市内の全小中学校に導入された 3,200 台のタブレット端末を授業で活用するための仕組みとして、ビジュアルコラボレーションサービス「xSync（バイシンクとは・・・パイオニア VC が展開する協創を支援するための教育用プラットフォームの総称。教室にある電子黒板や学習用端末などを連携し、画像転送を短時間で繰り返し行うことで、自分のアイデアとたくさんの仲間の意見を協働し、新たなオリジナルな発想を創り出す「シンクロする学び」を提供するとしている。）」を草津市に提供したとパイオニア VC からの協力が出来たこともあり、より充実した取り組みとなっています。

子どもたちにとってより良い環境で勉学に励むことが出来る環境を整えることは嬉しい事でもあるが、私個人、子どもを持つ親としては、少々不安を感じてしまいます。基本的な「読み・書き・そろばん」を習得する段階から ICT を活用することが本当に望ましい事なのか疑問を感じます。「読み（相手の伝えたいことを正確に読み取る）・書き（自分の伝えたいことを正確に表現する）・そろばん（数字をきちんと把握し、正確な答えを出すこと）」を考えると、小さい頃から五感を使い、様々な経験や体験をすることでしか学べないことも多くあるように思うからです。

電子黒板やタブレットの導入により、子どもたちが楽しみながらゲーム感覚で授業を受けることができ、集中力が向上しているという結果もあるが、これは、今の時代だからではないかとも考えます。当たり前になってしまった場合に同じような結果を維持し続けることが出来るのか？ICT の活用については、子どもたちの将来を考え使用場所や方法を十分に精査する必要があると思いました。

日 時：平成 27 年 5 月 21 日 水曜日 11:40～12:40
場 所：東京ビッグサイト「6回教育 IT ソリューション EXPO」
セミナーテーマ：8 大学連携で、学生の基礎学力をサポート！
講 師：千歳科学技術大学 総合光科学部 教授 小松川浩

8 大学連携での実施内容（ICT 活用教育の観点で）

- ・ 入学前教育の実施（e ラーニングの活用）
↓
- ・ 入学後のプレイズメントテストの実施・返却
高校段階までの基本的な知識の確認（英語・日本語・数学・情報+学修観）
↓
- ・ 各大学での初年次教育の実施（授業）
↓
- ・ 大学間共通での到達度テストの実施
↓
- ・ 主体的に学ぶ（e ラーニング）

授業の成果（学生による授業評価アンケート）

- 1、授業に対して関心のある学生が、受講前は半数以下であったが、授業を受講することによって約 7 割の学生が積極的に取り組むようになった。また、受講後には約 8 割の学生が日本語（表現）を意識するようになった。
- 2、e ラーニングの良い点として、8 割以上の学生が場所や時間に拘束されずに受講できる点を挙げている。実際に受講場所としては自宅が最も多い。
- 3、対面授業と e ラーニングを組み合わせたブレンディッドラーニングに対して、約 6 割の学生は対面授業よりも良いと好意的に捉えている。
- 4、授業目標として掲げた 3 つの目標の自己評価（平均）は、10 点満点中 7.6 点で、授業を受講することによって、高い自己肯定感を得ている。

8 大学連携を実施している大学 e ラーニング協議会

8 大学連携は、千歳科学技術大学、北星学園大学、桜の聖母短期大学、創価大学、山梨大学、愛知大学、愛媛大学、佐賀大学で行われている。基盤となる大学連携の枠組みとしては「大学 e ラーニング協議会」があり、2014 年 11 月現在で加盟大学 46 校、協賛企業 6 社となっている。

この協議会は、日本における e ラーニングを先導的に推進している大学が集まり、教育・運用方法に関する知識交流を図りながら、緩やかな大学連携の在り方を検討している。具体的には、e ラーニングに関するノウハウ（知識）や、教育方法と密接に連携した取り組みなどを積極的に公開し、e ラーニングを活用した効果的な授業展開や新たな教育方法の確立を検討している。なお、具体的な知見を共有するための部会を設置して、各大学が保有する教材や運用システムの相互活用や、教育支援サービスに関する運用ノウハウの相互提供に関する検討も行っていく予定としている。

所感

本講演は、大学連携における e ラーニングに関する研究段階の取り組み事例や教材等の紹介であったため、日進市における大学連携の新たな取り組みのような内容とは異なっていました。

しかし、e ラーニングを活用した、地域と大学のあり方については、新たな取り組みを始められるのではないかと考えます。日進市内には、短大を含めた 6 大学が立地する恵まれた環境にあるといえます。これは、大学をはじめ、先生方や学生達は地域の宝であるとの考えからです。

しかし、一方では現在の状況として市内の大学生数が減少傾向にあり、大学の都心回帰や地元大学への入学希望者の増加などが考えられます。

その背景には、学費をはじめ住まいの確保など、金銭面での負担が大きいことも一つの理由であると考えます。実際に、日進市内の大学に在籍しながら、アルバイトをするため、名古屋市内で生活をしながら通学している場合もあります。

大学にとっては学生が集まらなければ運営が成り立たないため、学生数の減少は死活問題となります。そのため、行政としても学生本人が「日進の大学に行きたい」また、ご家族にとっても送り出しやすい環境を整備することが求められていると考えています。

例えば、学生と市内の小学生・中学生・高校生に対して、e ラーニングを活用した大学生による授業を展開すると同時に、個別の家庭教師として視聴する児童生徒のフォローを行うなど、ボランティアではなくアルバイトとして確立できるような仕組み作りを行う。内容においても、大学の部や科が多い日進市においては、専門性のあるような学習コースを組み立てることが可能ではないかと考えています。

学生においては、自分より下の世代への指導をすることで、より理解度が高まり学力の向上にもつながるのではないかと思います。また、地域貢献・社会貢献を行うと同時にアルバイトとして成立させることが出来れば充実した社会経験を積むことも可能であると思います。

そうすることで、日進市においては市内だけでなく、市外からの若い力を最大限に活かすことのできる街となります。

また、大学においては、こうした街との連携を行うことで更なる魅力向上につながり、学生の減少を防ぐことにもつながるのではないかと考えています。

本講演で紹介された事業には、愛知大学も参画されているため、現在の取り組みについてのお話を伺うと共に日進市における大学連携のあり方を見直してみることも必要ではないかと思います。

日進市にとって大学が立地していることは大きな財産であるが、活用しなければ「宝の持ち腐れ」になると思います。本市においては、現在の大学連携だけでなく、今後、10年20年先を見越して、様々な方面に連携の拡大を図る必要があると考えます。